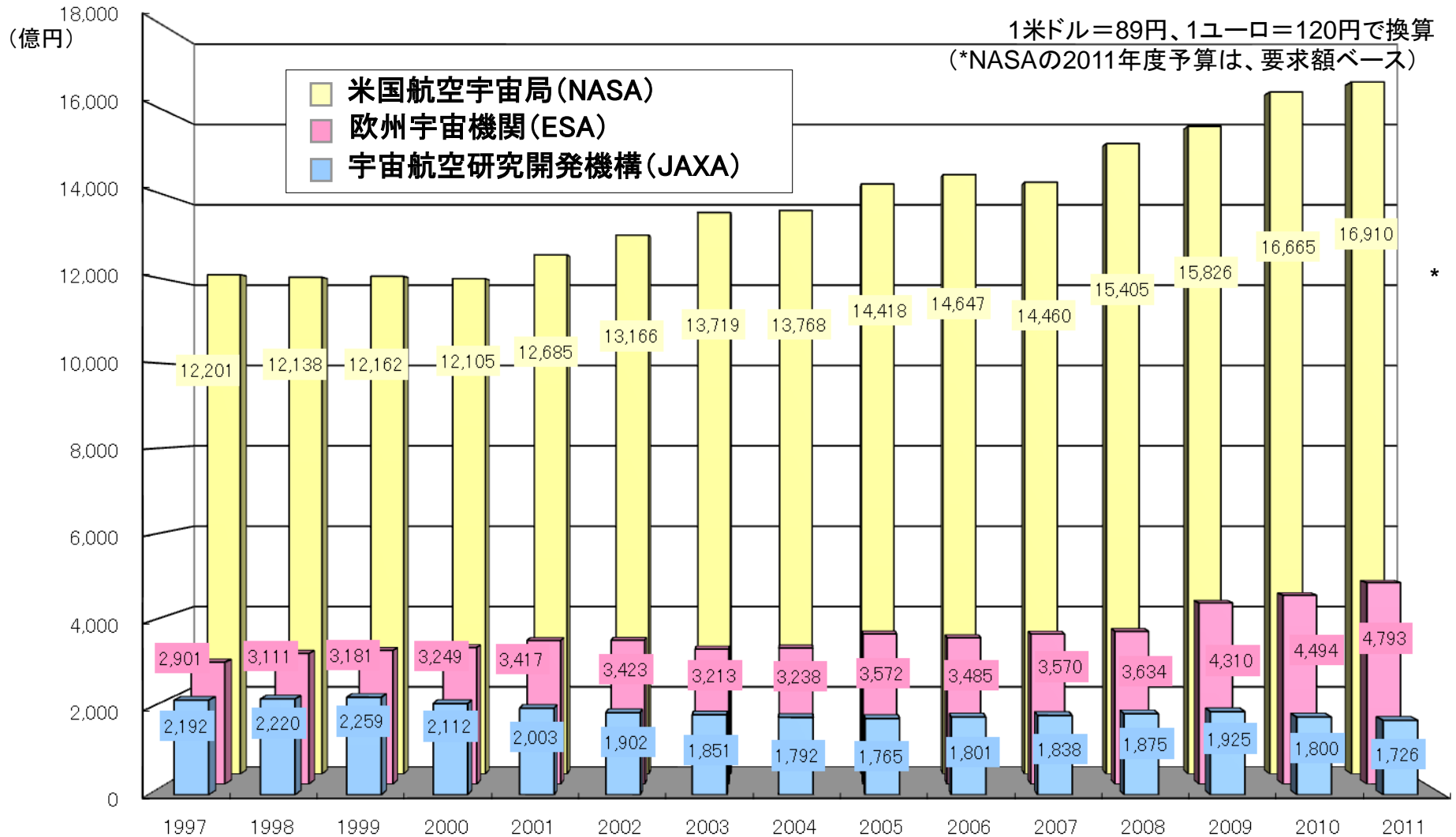


# 米国(NASA)、欧州宇宙機関(ESA)との予算規模比較

現状のJAXA予算規模はNASAの約1割、ESAの約4割

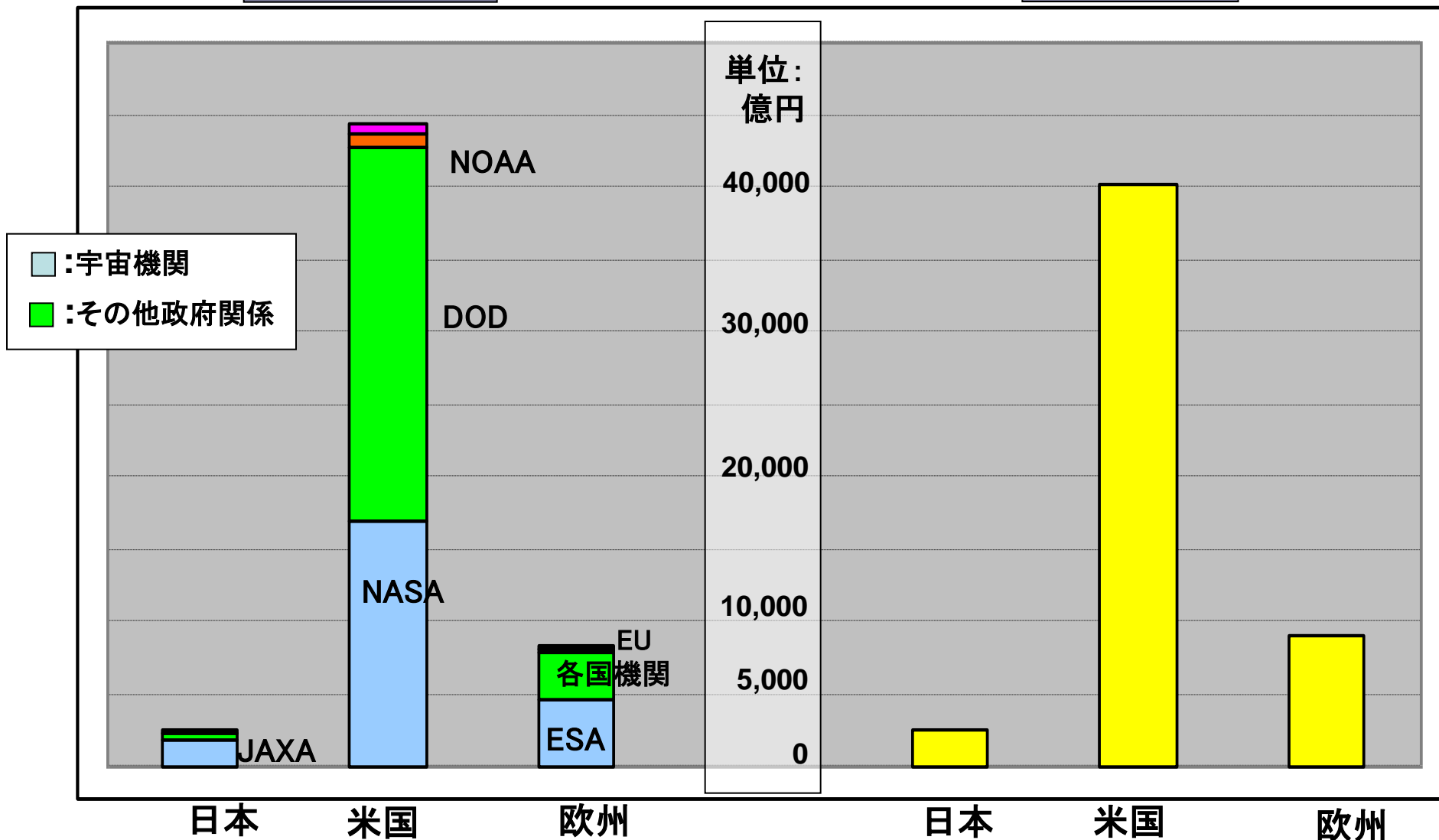


注：米国はNASA以外にも国防省等の宇宙予算がある。

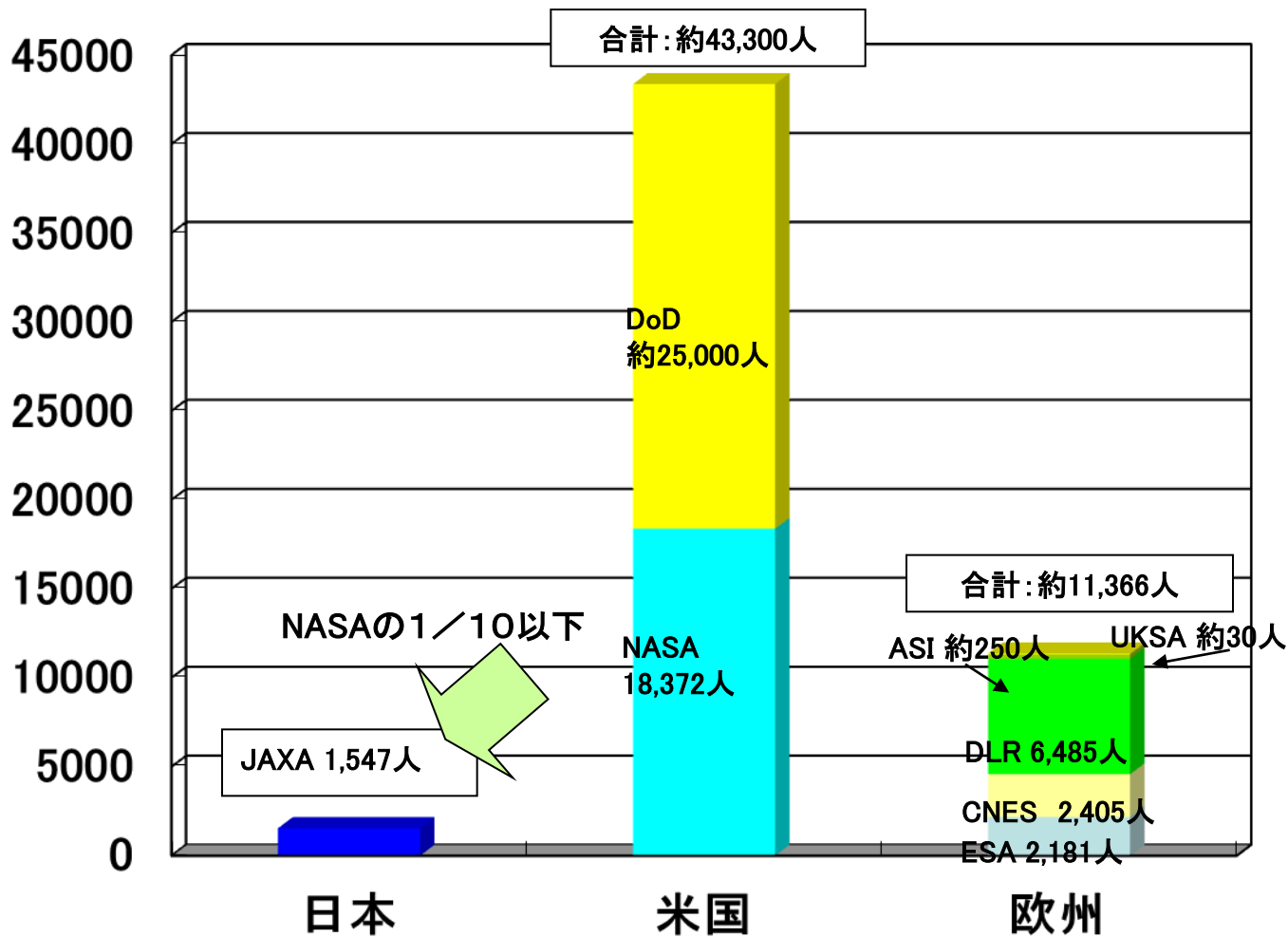
# 日・米・欧の宇宙関連予算と宇宙機器産業売上高の比較

政府関係予算

産業売上高



# 宇宙機関の人員数の国際比較



JAXA : 宇宙航空研究開発機構  
 NASA : 米国航空宇宙局  
 DoD : 米国国防総省  
 ESA : 欧州宇宙機関  
 CNES : フランス国立宇宙研究センター  
 DLR : ドイツ航空宇宙センター  
 ASI : イタリア宇宙機関  
 UKSA : イギリス宇宙庁

日本の人員は2011年4月1日現在。  
 各国宇宙機関の人員は原則としてウェブの公式サイト、年報等から確認できる最新の公表値を元に作成した。  
 (NASA 2011年・ウェブサイト、DoD アメリカ戦略軍(USSTRATCOM)2008年・ウェブサイト公表人員規模、ESA 2010年・年報、DLR 2010年・研究事業報告書、CNES 2010年・年報、UKSA 2010年・駐在員聴取情報 2009年ウェブサイト、ASI 2009年・駐在員聴取情報)

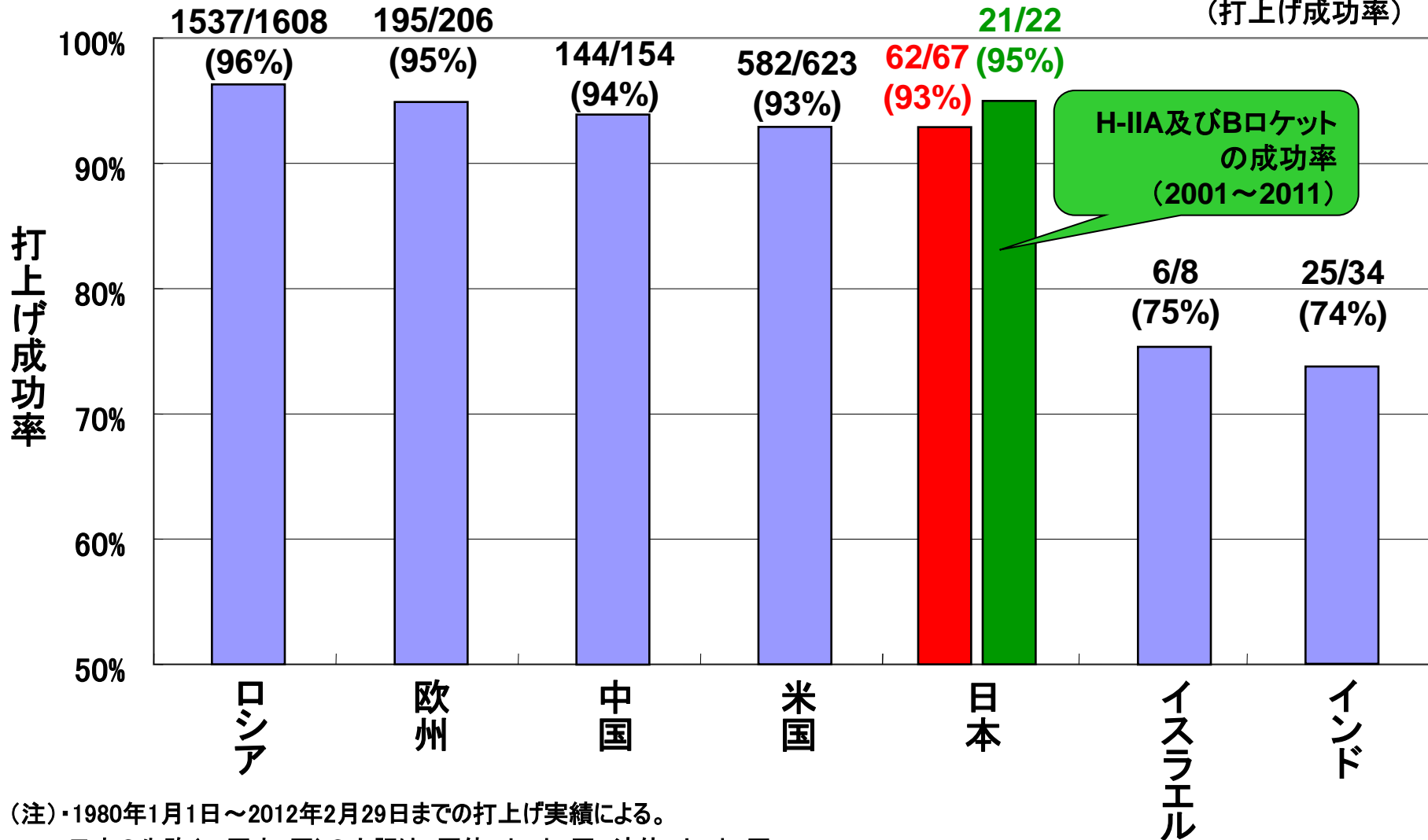
中国の人員数は不明  
 韓国は約700人(2011年・韓国航空宇宙研究所(KARI)職員数。KARI報告資料)  
 インドは約18,249人(2010年・インド宇宙省事務局・支局、インド宇宙研究機関(ISRO)本部等の合計人数。2009-2010年ISRO年報)

※NASAの職員数にJPL職員は含まない ※DLRの職員数には、エネルギーや運輸など航空宇宙分野以外の人員も含む

# 各国のロケットの打上げ成功率

期間: 昭和55(1980)年～平成24(2012)年

成功数／打上げ数  
(打上げ成功率)



(注)・1980年1月1日～2012年2月29日までの打上げ実績による。

- ・日本の失敗(65回中5回)の内訳は、固体ロケット2回、液体ロケット3回。
- ・ロシアは旧ソ連、ウクライナを含む
- ・上記分類をまったく多国籍企業(シーロンチ社、インターナショナルロンチサービス社、ユーロコット社、スターセム社)による打上げは除く
- ・成功率は小数点以下四捨五入